

研究区分	教員特別研究推進 教育推進
------	---------------

研究テーマ	コロナ禍におけるヨーロッパ地域研究と学習支援②				
研究組織	代表者	所属・職名	国際関係学部・准教授	氏名	森 直香
	研究分担者	所属・職名	国際関係学部・教授	氏名	剣持 久木
		所属・職名	国際関係学部・准教授	氏名	小谷 民菜
		所属・職名	国際関係学部・准教授	氏名	ファイファー、M
		所属・職名	国際関係学部・講師	氏名	山本 健介
	発表者	所属・職名	国際関係学部・准教授	氏名	森 直香

講演題目	コロナ禍におけるヨーロッパ地域研究と学習支援
------	------------------------

研究の目的、成果及び今後の展望

研究の背景と目的
 新型コロナウイルス感染症拡大で海外渡航が困難になり、従来の地域研究・学習のモデルは再考を迫られている。本学のこれまでのヨーロッパ地域研究は、ドイツ・フランス・スペインにある大学と協定関係を構築し交流することによって、学生に現地における最新の知見を得る機会を提供してきた。また、留学という大きな目標を与えることで、学習の動機づけをすることに成功してきた。ところが、事態は一変し、ヨーロッパから有識者を招くこともできず、学生たちは留学という大きな目標を失ってしまった。本研究は、このような状況下において、新たな地域研究・学習モデルを創出することを目指すものである。具体的には、映像を用いた研究・学習の機会の確保と、海外大学との交流や日本国内におけるフィールドワーク活動の機会の創出などにより、新しい形でのヨーロッパ地域へのかかわりの可能性を示そうとした。

成果
 新学期のガイダンスにて在日ヨーロッパ人やヨーロッパと深いかかわりを持つ方の日欧交流についてまとめた冊子、浅間哲平、森直香編・著『ローカルから見るヨーロッパ—国際関係学を学ぶ人へ—』（静岡県立大学国際関係学部ヨーロッパ文化コース、2022年）を国際関係学部の1,2年生に配布し、ポストコロナ時代の国際交流の在り方について提案した。また、本学と国際交流協定を結んでいるスペイン国立バリャドリッド大学のリカルド・デ・ラ・フエンテ氏（教育学部長）の日西比較文学をテーマとした寄稿論文「アントニオ・マチャードをめぐって—印象派と俳句—」を翻訳・発行した（『国際関係・比較文化研究』第21巻第1号、2022年、pp. 45-63）。この論文は今後、教材として比較文化関連の授業で活用する予定である。さらに、以下の特別講義を行った。
 ブレーメン工科大学教員による特別講義：A.Krueger "Struggle for Recognition."（2022年11月16日）、T.Goydke "Digital Globalization"（2022年11月28日）、F.Giesa "Inbound logistics in times of global uncertainty"（2023年1月18日）。Zoom開催。
 菱木晃子「私にとってのスウェーデン児童文学—ニルスやピッピと出会って—」2023年1月25日、於・静岡県立大学国際関係学部。